

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390300509		
法人名	医療法人 愛生会		
事業所名	第2グループホーム愛生		
所在地	熊本県入吉市南泉田町115		
自己評価作成日	平成29年2月1日	評価結果市町村受理日	平成29年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成29年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人に属しており、医療機関や訪問看護ステーションも近くに位置しています。系列病院の主治医による訪問診療を取り入れており、緊急時の対応や夜間受診の際には訪問看護と医療機関が連携をとり、適切な医療が受けられる様に支援しています。認知症の進行予防に、くもんの学習療法を取り入れ入居者とのコミュニケーションを深めています。又、季節の行事として花見等を計画し、御家族も一緒に食事会に参加して頂いています。
 <ハード面>
 太陽光発電・天然温泉・防火耐火建築

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所より丸7年を迎えようとしているホームは、併設された有料ホームや小規模多機能事業所を有するビル3階にあり、人吉の街並みを眼下に望みながら、9名の入居者が穏やかな日常を送っている。恒例行事となった夏祭りや文化祭は当初より継続され、地域商店による“よかもんね市”も以前より入居者の楽しみとなっている。居住の場が3階である事からなるべく外出の機会を検討し、近隣の散歩や入居者に馴染みの球磨川沿いを歩いたり、梅園にはつぼみの時期から数回足を運んでその変化を楽しむなど心ある対応をしている。母体医療機関や訪問看護、併設事業所との連携は、緊急時や夜間の医療対応に心強いばかりでなく、普段の交流が入居者の生活に大いにプラスとなっている。現場で働く職員から聞かれた「働きやすい環境が1番大切であり、いつも心がけている」の一言は、ホームの雰囲気より温かいものとし、家族や来訪者にも居心地の良い時間を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で作った理念を施設内に掲示している。又、朝礼時には唱和している。終礼時、実行出来たかチェックリストを作成し記入・確認できるようにしている。	平成22年の開設時に、併設する有料ホームや小規模多機能事業所と共に支援の柱として掲げた理念には「安心」「信頼」「真心」「チームワーク」「笑顔」を謳っている。朝礼時の唱和により共有を図り、終礼時にはチェック表にて項目ごとにその日を振り返り評価する機会を持っている。	理念は複合型の施設として他事業所と同じ内容となっているが、地域密着型の意義を踏まえたグループホーム独自の理念も今後は検討の必要があると考えられる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所合同で夏祭りや文化祭を行っている。その際は地域のボランティアを募り参加して頂いている。又、毎月1度近所のスーパーから来られ、よかもん市を開催しており、その際には買い物を楽しんで頂いている。	恒例行事となった夏祭りや文化祭には家族も参加し、職員の出し物や入居者による歌が披露されている。ボランティアによる“ひょっとこ踊り”で大いに盛り上がったようである。地域商店が協賛する“よかもん市”に出かけ、顔なじみの店主と言葉を交わしている。散歩中には下校する小学生へ「道くさせんで帰らんば〜！」の声を掛けられるなど、日々の暮らしぶりが窺える。	入居者が下校時の子ども達にかける一言は、地域の一員としての役割にも繋がり、今後は『子どもの見守り隊』として活躍される場を設けていかれることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームヘルパー養成研修の施設実習を受け入れている。ボランティアスクール・人吉球磨若者ステーションの受け入れを行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況や事業所の取り組み等について報告し、意見や助言を頂いている。又、地域の現状や行事予定等の情報を得ている。H29年1月より介護相談員の方も参加して頂いている。	隣接する多目的ホールを会場として定期開催が実現している。行政や社協・地域や家族代表者が参加し、他事業所の合同会議となっている。この1月からは市の相談員が会議に参加しており、意見の拡充に繋がるものと思われる。また、相談員の役割などについても行政担当者が説明をしている。会議内容は参加できなかった家族へも電話で報告され、共有としている。	議事録については参加者の誰の発言かなど、記録方法について検討の余地があると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ファックスや運営推進会議で市の担当者から研修会・インフルエンザやノロウイルス等の感染情報を得ている。運営上分からない点や判断に迷う際にはいつでも相談できる関係を築いている。	運営推進会議への行政の参加により、市の情報や本年度は特に震災に関する内容が多くもたらされている。研修案内や感染症などの情報についてもいち早く伝えられている。管理者は相談事や何かあれば直ぐに対応してもらえる友好的な関係であることに感謝している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内の勉強会・外部の研修への参加にて身体拘束がもたらす悪循環を職員は理解している。業務の中でも振り返る場面があり、全職員が拘束をしない意識を持って業務に従事している。	年間研修計画に身体拘束を盛り込み担当職員が、書類作りや進行役を務めている。拘束による弊害を全員が認識しており、スピーチロックについても注意を払い、入浴時のボディチェックにより身体面への異常にも早期に対応できるよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どんなことが虐待になるか理解し仕事に従事している。ホーム内の勉強会や研修を通し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回程度だが職員研修を行っている。又、人吉・球磨グループホーム連絡会の研修にて人吉社会福祉協議会より講師を招き、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、管理者が本人と家族に対し説明を行っている。特に利用料や入院・退居時の不安な部分は十分な説明を行い理解を得てから署名・捺印を頂いている。訪問診療の説明については訪問看護の管理者が行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で、本人やその家族と話す機会を設けている。入居者の生活の様子・状態を報告したり、話をすることで情報を把握、職員間で共有し日々の生活に反映している。	入居者とは1対1になった時や、夜間帯のゆっくりした時間に話を聞くように努めている。家族の意見や要望は面会時や定期的な電話にて入居者の近況を伝えたくて確認する様にしている。公的な相談機関としては、入居時に書面の中で説明を行っている。	家族の意見や要望を把握する手段として、1階の玄関にアンケート用紙を設置している。しかし、利用には至っておらず、今後は内容も含めて検討する事が必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議を最週月曜日に行っている。意見や提案を日々の業務の中でも相談があれば聞くようにしている。全職員で出た意見や提案を検討し反映させている。	定期的な会議をはじめ、申し送りなどの機会に職員の意見や提案を確認している。出された内容やケアの見直しについては、その都度話し合い入居者の支援に反映させている。また、センター長も機会あるごとにホームを訪れ、職員の相談事に応じ、適切な指導や助言を行い、働きやすい職場環境となるよう尽力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の健康診断は定期的実施している。親睦を深める為の諸行事(スポーツ大会・忘年会)を開催しており、希望休はとれるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	掲示板にて研修の情報を公開しており、いつでも見れるようになっている。必要な研修は参加を促しており、ホームの研修に関しては自分で調べ講師役となって研修会を毎月行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2カ月に1回グループホーム連絡会の研修に参加している。他事業所の職員と意見・情報交換をする事により、当ホームの見直し、問題解決に役立てている。又、法人内の他事業所とも情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居までに管理者が本人と面談している。又、家族と共に見学して頂き本人の問題点、家族の思い等を傾聴している。安心してサービスへ移行できるように信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望や意見があった際には、職員間で共有し可能な限り実行できるようにしている。又、入居者の方がホームの生活に馴染まれるまではこまめに情報を提供し、不安の軽減に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の方より相談があった際は、何が必要か見極め法人内外のサービス利用も含めた検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの残存能力に応じて洗濯物たたみやカーテンの開け閉め等できることはお願いしている。入居者の方に役割意識を持って生活できるように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は出来るだけ来て頂くように話をしている。家族の方と居室にて一緒に食事を食べられる方や外食に行かれる方もおられる。病院受診等、一緒に外出される所もあり、お正月には外泊された方もおられた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人吉梅園や人吉城等馴染みの場所にドライブに行ったり、誕生日にケーキ屋へ食へに行ったりしている。近所には菅原天満宮があり散歩の際、お参りをしたり、おくんちの日には祭りの見学をしている。	入居者にとって馴染みの場所は、地元商店や球磨川・神社・梅園・祭り見学であり、可能な限り地域に出て人々と交流する機会を持つようにしている。洗濯たたみなどの家事を日課とされる方、大好きな歌の時間を楽しまれる方など、これまでの生活を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の席は入居者同士の関係を考えながら席決めを行っている。入居者の方が孤立しないように職員が間に入ったり、皆で参加できる活動・行事を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等によりサービスの利用が終了しても、本人の様子を何う為に訪問に行ったり、電話での状態把握に努めている。他の事業所で亡くなられた際にはお通夜に参列し当時のお話をしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を伝えることが可能な入居者には、寄り添い・傾聴し・記録を残し・要望に添えるようにしている。意思疎通が困難な方には、反応やしぐさで把握するように努め、職員間で共有し検討している。	自身の思いや意向を伝えることが可能な方については、日々の中で寄り添いながら確認しケア会議で共有を図りながら実現できるよう努めている。また、意思表示の困難な方については、特に表情などから推察したり、家族にも確認を行い、本人本位に支援できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を家族や担当のケアマネジャーより提供して頂いている。生活リズムやこれまでの生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で個々の生活状況・心身の状態変化を把握するようにしている。気付いたことや変わったことを朝・夕の申し送り・申し送りノート等を使って情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前には担当者会議を開いて、本人・家族、訪問看護からの意見を聞いて作成している。チェック表を作成しており、介護計画が実行されたかどうか毎日チェックを行っている。	計画作成担当者は、本人・家族の意向を重視しながら、職員や訪問看護などの関係者からの意見をもとにプランを作成している。また、モニタリング記録表にてケアの評価を行い、現状に即したのものになっているか、日々確認している。家族へプランの説明を行なう際は、専門用語を使わず、丁寧な説明により了承を得ている。又、何か希望などがあるかその都度確認し、信頼関係を築けるよう努力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化みられたらカルテに詳細を記入している。職員間での情報を共有し、介護計画に沿ったケアを実施している。又、それに伴う介護計画の見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人全体の協力を得ることが可能である。家族の方の都合に合わせ、必要に応じて通院等柔軟に対応している。又、オムツ類や必要な物の買い物を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1度、地元のスーパーが品物を持ってこれ好きな物を購入して頂いている。又、地域の方がボランティア等で来園される時は一緒に取り組むようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全入居者が系列病院の主治医であり、月に2度訪問診療に来られる。入居中に別の医療機関を希望される場合も、本人や家族の意思を尊重するようにしている。受診後は家族との情報の共有に努めている。	もともと法人医療機関がかかりつけ医だった方もあり、現在は本人・家族の了解のもと定期的な訪問診療が行われている。眼・皮膚科など専門医受診については、家族が対応している。受診結果は家族と情報を共有し、相談にも応じながら適切な医療支援に繋げている。職員は日々のバイタルチェックや表情・動き、体重測定(車椅子対応計測器もあり)などにより、入居者の健康を管理し、気になることがあれば主治医に相談している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の訪問看護ステーションと連携し毎週火曜日に健康チェックを行っている。その際に情報を伝え、指導や指示をうけている。夜間緊急時も連絡対応可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎月の管理者会議や入退院調整会議が毎週あり、法人内事業所との情報交換を行っている。入院が必要になった場合には情報提供書を作成し申し送りを行っている。入院時は頻回に病院を訪問し状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の説明・延命意思確認書を作成している。緊急時や延命、状態が悪化した際にはDr・訪問看護・家族・管理者との話し合いを行っている。	入居時に法人の訪問看護職員も同席し、終末期対応に関する説明や延命意思確認書を作成している。そのような状態になった場合は、あらためて医師を含め関係者との話し合いを行っている。退所基準は口腔摂取ができるまでを判断の目安とし、退去後の医療機関先などにも、家族に心配をかけないことを、ホームの方針とし誠心誠意相談に応じながら進めている。	特別養護老人ホームなどへの住み替えを希望されていても、引き続きホームでの生活を続けておられる方など、ホームや職員との関係性を知ることができる。今後もホームに出来る支援で本人・家族に最良の時間を提供していきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	人吉・球磨グループホーム連絡会にて定期的に普通救命講習を行い参加している。又、訪問診療を取り入れている為、Dr・訪問看護と話合いの場を設けている。急変の可能性のある方はDr・訪問看護・家族・管理者との話し合いをするようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。当ホームが3階にあり、同法人の他事業所と合同訓練となっている。災害用の避難グッズ購入と備蓄を行っている。	消防署の参加協力を得た総合訓練を含め年2回、同法人合同の避難訓練を実施している。総評では、避難した後の居室の目印が有効であった事や3階にあるホームであるため、普段から意識を持って業務にあたることなどの評価を受けている。避難用品の準備やコンセントの埃チェックなど日頃から取り組んでいる。	今後はホーム単独や夜間の訓練も必要と思われ、まずは机上で行って見られることを期待したい。運営推進会議の中に組み込んだ災害訓練も一案かと思われる。また、台所はIHであるがコンロの周辺や壁に可燃物のないよう十分注意されることを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	男子トイレにはカーテンをつけて対応している。入居者一人ひとりの性格を理解し、その方が安心するような声かけを行っている。	入居者の個性やこれまでの人生を尊重し、安心されるような語りかけ、誘導を共有し支援している。呼称は基本的に苗字にさん付けで対応している。定期的な理美容支援や起床時はベッドに服を広げ選択してもらうなど、個性や好みを活かした整容ができるようにしている。個人情報や守秘義務については、研修会の中で周知徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が出来る方には衣類の選択等行って頂いている。本人の考えや希望を傾聴し表情等から本人の思いをくみとるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活ペースに合わせて、起床・入浴・臥床等を行っている。できる限り入居者の希望やその日の体調に合わせたケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度、美容師の方が訪問され散髪を行ってもらっている。毎日の身だしなみ等は本人の要望に添いながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は栄養士が作成している。調理は職員の方で行っており簡単な盛り付けは入居者の方と一緒にしている。花見等の行事の際には、弁当や鉢盛を取り寄せ家族の方にも声をかけている。又、ノンアルコール等も準備し好評である。	献立や食材購入は法人栄養課が担当しており、調理をホーム職員が輪番で行っている。入居者は盛りつけや下膳、おやつ作りなどできることで食への関わりを持っている。花見の際は弁当やオードブルを購入し、家族へも声をかけ共に楽しい時間を過ごしてもらっている。また、イベント時にはノンアルコール飲料を準備しており、入居者にも好評のようである。	入居者と思いを共有するためにも、今後は味や量の確認を兼ね、1名でも同じ食事を摂ることを検討いただきたい。また、洗い物は可能な限り、入居者の食事がある程度済んでから取り掛かることが望ましいと思われる。入居者の食事を急がせていないか？など、共に食事を摂る事でこのような気づきも現れるものと思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成している。食事・水分量のチェックは毎食後行っており把握できている。入居者の状態に応じて食事形態を工夫しながら提供しており、水分摂取が困難な方にはゼリーやジュース等にて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝の整容時・毎食後に口腔ケアを実施している。不十分な方に関しては職員の方で対応しており、夕食後には義歯は預かり洗浄剤を使用している。異常のある方は、歯科に相談し訪問歯科・受診にて対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけており時間による声かけ・誘導の方を行っている。又、本人からの訴えや立ち上がり、表情等サインみられたらトイレでの排泄を促している。排泄の際は一人ひとりの能力に応じてできる部分は行ってもらっている。	チェック表で共有を図り、自立の方の継続や声かけ・誘導を行っている。個々に応じて布やリハビリパンツ、オムツにパットの併用や昼・夜で使い分けを検討しながら支援している。夜間のみ使用される方のポータブルトイレは、週末天日干しにより清潔に管理している。排泄用品はホームで準備しているが、面会を兼ね家族が持参される場合も有り、適切な用品について相談に応じたりアドバイスをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操を実施しており、乳製品を2日に一度出すようにしている。排泄・水分チェックを行い便秘の方には腹部マッサージ等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の隔日入浴で誘いかけを行っている。午前・午後それぞれ行っており、本人の希望・体調に合わせて時間をあけたり入浴日の変更を行っている。	ヒノキの温泉が楽しめるホームでは、入居者の希望も確認しながら週3回の入浴に取り組んでいる。皮膚疾患時は足浴を併用し、汚染時はその都度清潔保持に努め、発汗あがれば可能な限り入浴やシャワーで対応している。拒否のある方には、時間をずらし再度誘いながら取り組んでいる。季節の菖蒲や柚子湯は全員が楽しめるよう2日間実施している。	ヒノキの温泉入浴はホームの特徴の一つであり、職員も機会があれば実際の入浴を体験する事で、入居者の思いや、使い勝手の良さ、不備などを共有できると思われる。また、浴室の棚の物品や脱衣場の排泄用品など、整頓をすることで、入浴の気分も増すものと思われ、取り組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて就寝や日中の臥床時間を設けている。夜間帯は室温の調整を行い良質な睡眠がとれるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の説明書はファイルに保管しており、職員がいつでも見られる状態にしている。内服変更時には申し送りを行い、送りノートへの記入を行っている。訪問診療時に入居者の状態を報告・症状の変化により内服の変更を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり性格や好みを把握し、今までの生活歴を参考したうえで役割等を提案している。洗濯物たたみや台拭き、カーテンの開け閉め等を行われている。活動としては外食・ドライブ・散歩・カラオケ等への誘いかけを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の方の希望を聞き四季(梅・花菖蒲・秋桜・彼岸花等)のドライブを実施している。花見の時期には家族の方を招待し一緒に食事をとって頂いている。入居者の中には定期的に家族の方と外食される方、お正月には外泊される方もおられる。	花見物は季節を感じる外出の機会であり、梅・秋桜・彼岸花など地域資源を活用しながら出かけている。特に梅園ではつぼみから満開までの様子を楽しむため何回も出かけている。地元最大の祭り見物や、地域のまつりに案内を受け出かけている。家族の協力としては正月の帰省の他、定期受診に出かけた際、食事を楽しんで帰園される方もおられる。	自宅の様子を見に帰るための個別支援なども行われており、今後も希望や身体状況などに応じた外出支援の継続に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本自己管理が難しい方は、預かり金とし職員の方で管理している。買い物の際には、金銭の受け渡し・計算の手伝いを行い、出来るだけ本人が自分の意思のもと購入できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方からの希望時や連絡があった際には電話の取り次ぎを行っている。又、家族の方には毎月広報をだして状況の報告をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く生活できるように空調や照明等に配慮している。季節の花を毎月一度華道の先生が来園され生けていかれる。掲示板には行事の写真を掲示したり、写真立てに集合写真を貼り、いつでも見れるようにしている。	ホームは1階の共有玄関からエレベーターを使用して階上するため、扉が開いた瞬間ホームの雰囲気を感じてもらえるような環境作りに努めている。外出やイベント時の写真、季節ごとの壁面の掲示は、入居者や家族の楽しみになっている。リビングホール内には、段上がりの畳スペースも設けられているが、現在は入居者の身体状況から、活用される機会は少なくなっている。	経年と共に物品も増えており、使用しないものについては、安全面からも移動や収納など定期的な見直しが必要と思われる。また、洗面台は身だしなみを整える場でもあり、必要な品のみ配置することが望ましいと思われる。ホームは3階にあるため、眺めの良さを満喫しながらも、安全面へは今後も十分な配慮を願いたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の方が自分の時間をもてたり、入居者同士が交流を図れるように日々の状態を把握している。リビングにはマッサージ機や畳みの部屋をおいており、廊下にはソファを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等は本人が慣れ親しんだ物・使用しやすい物を持参してもらうように話をしている。入居者によりテレビやラジオを持ち込まれている方もおられる。	入居時の持ち込みについて、本人がこれまで使っていた物が安心に繋がり、新しく購入する必要はない事を伝えている。目覚まし時計や写真、テレビやラジオの他、収納は大きな家具より、軽めのプラスチックケースを準備されるところが多くなっている。掃き出し窓で採光も十分な部屋は開放感もあり、面会の家族もゆっくりとした時間を持たれている。職員は入居者の状況に応じて、ベッドや物品の配置を検討し、歩行や自走がスムーズに行えるようにしている。	居室内に置かれた排泄用品については、ケースへの収納やクロスをかけるなど、職員のひと工夫を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力に応じて居室の配置を変更し、なるべく自立した生活が送れるように工夫している。トイレ等の表示を分かりやすく文字を拡大して貼っている。		